



## 宮崎県議会議員 田口ゆうじ 議会だより

皆様におかれましては、ご家族お揃いで新年をお迎えのことと存じます。昨年4月には、2期目の県議の議席をいただき、新たな気持ちで山積する県政の課題に取り組んで参りました。さて、昨年の11月14日に延岡を故郷とする平田健二氏が第29代参議院議長に就任しました。岐阜県選出の議員のため、あまり知られていませんが、延岡市内には90歳を超えたご両親がご健在です。強力な宮崎県の応援団の誕生で、心強い限りです。今後もお力添えをいただきたいものです。



11月議会一般質問

本年は日本、宮崎にとりまして、再生復興の正念場です。また本県には近い将来、東南海地震や日向灘地震等の発生、津波襲来も予想されています。私は本県、県北浮揚対策と県民の安心安全のため、防災対策もしっかりと取り組んで参ります。引き続き叱咤激励を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、本年が災害のない安心安全の年となりますこと、皆様にとりまして素晴らしい1年となりますことをお祈り申し上げます。

## 11月議会のご報告

11月25日～12月13日までの19日間に渡って開催されました。国の第3次補正予算等による追加補正等が可決されました。私は今回は一般質問で医療福祉、道路、教育等について質問しました。内容の一部を新聞の記事でご紹介いたします。

## 津波警報 迂回候補路線を選定中



田口雄二議員

【田口雄二議員】平田健二氏の参院議長就任に延岡市ゆかりの強力な宮崎応援団長の誕生だ。▽出先機関改革―東日本大震災を機に出先機関廃止に反対する声が大きくなっている。インフラ整備が遅れた本県にとって不利な状況を招くのではの声もある。▽防災対策―東日本大震災に伴う津波警報発令時に国道10号の県北4区間、約11キロで交通規制が実施された。迂回(うか)の確保など今後どうするか。【河野知事】平田健二氏の参院議長就任―県民の重要。消防は昨年度から、全国トップクラスの連続実績のある千葉北総病院に派遣し、要請の判断方法などを学んでいる。医療機関も患者を円滑に搬送するため、医師会と連携して受け入れ機能などの調査を行っている」と述べた。

### 東九州メディカルバレー構想 年内にも指定可否判明

県は5日、大分県と共同で国に地域活性化総合特区への指定を申請中の「東九州メディカルバレー構想」について、年内にも指定の可否が判明するとの見通しを示した。

開会中の県議会一般質問で、田口雄二議員(新みやざき)の質問に、米原隆夫商工観光労働部長が答えた。

県と大分県にまたがる東九州地域には、血液や血管に関する医療機器メーカーが数多く立地し、国内有数の生産開発拠点となっている。構想は、産業を核にした地域活性化を掲げ、両県に工場を置く

12月22日に総合特区の指定を受けました

毎日新聞(平成23年12月6日)

### 救命救急センター 医師14人体制へ

#### 宮大病院 ドクターヘリ運航で

宮崎大学医学部付属病院が来月4月からのドクターヘリ運航に伴い、救急患者を受け入れる救命救急センターに医師14人の配置を目指していることが5日、分かった。県議会定例会一般質問で、土持正弘福祉保健部長が

田口雄二議員に答えた。ドクヘリ運航時の人員体制について、土持部長は「宮崎大学医学部付属病院では現在、救命救急センターの整備と人材育成を行っており、既に医師7人、看護師15人を確保。運航時は医師14人、看護師48人体制を目指し、大宮病院内外からのスタッフ確保が進められている」と述べた。

ドクヘリは有相昇飛行が原則で、雨などの視界不良時や夜間は運航できない。これらを基に、土持部長は年間の出動回数を「全国の昨年度平均回数と同程度の約400回」と見込んだ。

出動要請は救急現場に出動した消防機関が行い、現在は具体的な要請の方法や基準、運用などのマニュアルについて、県内消防機関や医師会、主要医療機関などで構成する運航準備委員会検討が進められている。

土持部長は「消防や医療機関との連携が極めて

夕刊デイリー新聞(平成23年12月6日)

【田口雄二ホームページ】  
<http://www.yuji-taguchi.com>

田口雄二 検索

### 研究者 県内病院 過去最多61人

#### 県宮大医学部「地域枠」効果

平成24年度から医師になる医学学生が臨床研修病院を選ぶ「マッチング」の最終結果で、県内病院の内定者が過去最多の61人となったことが5日の県議会定例会一般質問で

取り上げられた。県は要因に宮崎大学が18年度から導入の医学部「地域枠」効果も挙げた。土持正弘福祉保健部長が田口雄二議員に答えた。

マッチング内定者は全国最少だった昨年の30人から倍増し、増加率は全国1位。61人の内訳は県内出身の宮崎大生が26人で昨年の6人から4.3倍増、県外出身の宮崎大生も8人から22人に増えた。

土持部長は「地域枠が大幅増の要因の一つ。宮崎大付属病院各診療科の先生をはじめ、臨床研修関連病院関係者の熱心な取り組みも大きい。将来

援なども重要なことだ。今回から設けた県立3病院を回ることでできる合同プログラムも希望者がいなかった。甲斐景文病院院長は「25年度に向け、県立宮崎病院への専任職員配置などの体制整備やプログラム見直しとともに、県外での病院説明会参加、バスツアー実施などに取り組みたい」と述べた。

研修医内定者(その後、県立延岡・宮崎に各1名ずつ2次募集で計2名が新たにマッチングし、合計63名となりました。延岡病院は4年振りの研修医となります。)

延岡商工同協会「30周年記念地引網&焼肉会」須美江海水浴場(9月11日)



九州・沖縄防衛議員連盟総会で沖縄県へ研修で米軍嘉手納基地へ(11月17日)

環境農林水産常任委員会委員長として出席

夕刊デイリー新聞(平成23年12月6日)



県畜産共進会 都城市 (株)ミヤチク高崎工場(10月25日)



口蹄疫復興祈念の森植樹(川南町)(11月6日)

ご意見・ご要望をお気軽にお聞かせ下さい。

TEL/FAX:0982-26-1945 携帯:090-5021-7729  
住所:〒882-0004 延岡市榎山町3-841-2  
e-mail:gucci.yuji.1203@docomo.ne.jp

### 政府・与党要職者と活発に意見交換

「新みやざき」は昨年10月17日、5名そろって上京し、口蹄疫からの復興や遅れている社会インフラの整備を求めて、政府・与党の要職にある国会議員と意見交換を行いました。

農林水産省では、鹿野道彦大臣と面会しました。口蹄疫からの復興のために、さらなる国の支援を要請するとともに、これからの農林水産業のあり方を議論。鹿野大臣は本県農業に深い理解を示しました。そのほか高速道路網などのインフラ整備について国土交通省、教育政策の充実について文部科学省を訪問しました。

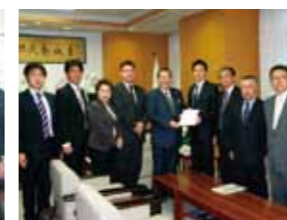
また与党からのバックアップを求めて、民主党本部の樽床伸二幹事長代行とも意見交換しました。



鹿野道彦農水相と意見交換



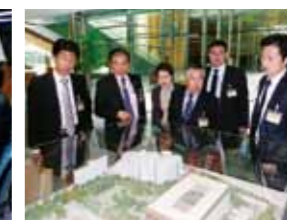
樽床伸二・民主党幹事長代行に支援を要請



奥村展三・副文科相と意見交換



津島恭一・国土交通政務官と意見交換



首相官邸を訪問



農水省・国交省勉強会

### 新みやざき代表挨拶

昨年、口蹄疫被害から復興を目指す本県にとって1月に鳥インフルエンザ、新燃岳噴火と更なる災害が発生し、厳しい始まりとなりました。3月には東日本大震災が発生。津波の被害で死者・行方不明者2万人以上という未曾有の被害をもたらした。福島原発事故の放射能汚染では未だに多くの国民が不安にさらされています。日本人が忘れられない一年となりました。

そのなかでも震災直後から、被災地では多くの方が人命の捜索・救出に力を尽くし、全国から駆け付けたボランティアが復旧を手助け、また国内外から支援物資や義援金が届けられました。

私たち会派も震災後二度の被災地訪問を行いました。絶望の景色が広がるなかで、多くの方が助け合い支え合う姿に、同じ日本人としての誇りを感じ、改めて家族の絆、地域の絆の大切さを考えさせられました。この大震災を機に日本人の価値観が大きく変わったと思います。

本県においても課題山積の中で、防災力の向上や経済の立て直しは急務であります。財政が厳しい状況を踏まえ、スピード感をもって県政改革を継続して行っていくこと。これからの地域の絆をどうつくるのか、次の世代にどうつないでいくのか、議会の場でしっかりと議論を深めていかねばなりません。

この新たな一年が県民にとって希望あふれる年となりますように我々新みやざきメンバー全力で取り組んで参ります。皆様からのご提言ご意見等お待ちしております。 **西村 賢**



県のキャラクターと県庁正面玄関で  
左から/徳重忠夫、渡辺創、西村賢(代表)、  
山口雄二(幹事長)、井上紀代子(政審会長)

#### 議会運営委員会

田口雄二委員

議会運営委員会委員が、「宮崎県議会のあり方検討委員会」のメンバーになり、県議会基本条例の制定を目指して協議を進めています。すでに制定している先進地、長野、三重、奈良の各県議会を10月末に視察して参りました。各県の条例を参考に年度内の制定を目指して、条例化して参ります。

※議会基本条例…地方分権改革によって議会の役割も大きくなりました。これに対して議会改革を継続し発展させることを目的に制定する条例



#### 総務政策常任委員会

西村賢委員

人事委員会勧告を踏まえ、医師の給与を除いた県職員の概ね40歳以上の県職員の給与引き下げ改定を行い、本会議で賛成多数で可決されました。(今回改定による人件費削減額は約三億四千万円)

また、本県の防災拠点としての県庁舎のあり方について、当局より「災害時の行政機能の維持を図るために、新たな防災拠点整備が適当であるとの結論に至った」との報告がなされました。今後は有識者等による検討委員会を設置して調査・検討を行う予定です。

#### 商工建設常任委員会

渡辺創副委員長

当委員会は、商工観光労働部と県土整備部を所管します。今、宮崎の観光行政は、転換点を迎えています。新しい宮崎のイメージを確立するため、若い女性やマリンスポーツ愛好者に狙いを絞った観光ルートの開拓に取り組むほか、新年度からは、年間を通して「花」を楽しめる宮崎をアピールする「花旅宮崎」に着手します。当委員会では、観光のほか商工業振興、労働政策、道路や河川、港湾などの幅広い分野の施策をチェックしています。

## 各常任委員会の取り組みを紹介

#### 環境農林水産常任委員会

田口雄二委員長

11月議会では「県林業公社」の今後について審議しました。公社存続においては、あり方に関する県方針(案)で示された経営改善の取り組みを確実に実行することはもとより、更なる収支改善の検討を求めました。また「県有種雄牛の凍結精液配布体制の見直し」が行われ、これまで家畜改良協会に所属する人口授精師に限定していましたが、来年度以降、協会外の授精師にも広がります。不適正に県外に流出しないよう管理体制の整備を求めました。

#### 文教警察企業常任委員会

井上紀代子委員

当委員会では、「第二次宮崎県教育振興基本計画」の具現化を図るために「宮崎県立高等学校教育整備計画」を議論中です。

学校は地域の核であり、防災の砦でもありますので、宮崎県の子どものための高等学校はどうあるべきかしっかりと議論が必要とします。

宮崎県の人口推計将来予想を踏まえれば、地域の高等学校の配置に変化が出る可能性を否定できません。これから県民の皆様からのパブリックコメントが実施されますので、ご意見をお寄せください。

#### 厚生常任委員会

徳重忠夫委員

県では、平成24年4月から、宮崎大学医学部付属病院ヘドクターヘリを導入するため、「ドクターヘリ導入促進事業」を実施しており、平成23年度においては、2億7900万円余りの予算を計上し、スタッフの研修やヘリポートの整備等を行っています。

厚生常任委員会では、県外調査において、平成17年度からドクターヘリを導入し、実績を積んでいる浦添総合病院(沖縄県)を訪問し、その実態や課題について調査しました。



### 宮崎PRにも参加!

同じく10月17日に都内のホテルで開催中だった「宮崎ウィーク」にも参加しました。「宮崎佳品づくり」と題したイベントでは、32品目の宮崎の農産物を使った料理を販売。ステージでのクイズなど県職員、関係者の皆さんと共に宮崎のPRに取り組みました。



イベントにも参加



宮崎の物産を使った料理

### 東日本大震災の復興状況を確認

翌18日は、「新みやざき」として2度目の東日本大震災被災地を視察。宮崎県が、職員派遣や県産品提供などで集中的に支援している宮城県山元町を訪ねました。仮設の町役場で、町長や宮崎県派遣の職員と意見交換をした後、津波で被害を受けた山下第二小学校が臨時的に入居する山下小学校を訪問。一つの校舎で、二つの小学校の児童が学んでいます。県が寄贈した、県産スギ材の学習机・椅子を子どもたちが大切に使っていました。



宮崎県が寄贈した県産スギ材の机と椅子



山元町長と意見交換



震災を乗り越えて元気に過ごす子どもたち



「新みやざき」では、県議会庁舎内控室前に広報掲示板を設置し、各議員の議会便りのほか、様々な活動報告を行っています。会派の活動、各議員の取り組みをこれからも積極的に発信していきます。控室にも気軽にお寄りください。